へ13
3754
35

戸へ13
3754
巻35

公徳物語 廿八篇 上集

往昔神武天皇の御宇葛城山の土蜘蛛ハ自已絲を巣を営る身
の葛網をく搦捕まゝ物を損ふ絲を用ゐハ捕るに
自業自得といはゝ而耳吾白縫も筆ハ信知の巣ぞいと
遠ぶ丈四方八面へ眼を配り住種をこゝつけ次第ハ引懸おき
片く撰て脚色とかすハ件の蟢子の所業ハ仍れど運筆ハ渠が身の
輕きにハ似ぬのみゝ〜で廣げ〜多端結寄る満尾の地ハ甚難苦く今
か〜胸の安か〜ぬハ羅をるりのゞ自已畧ハかるに茅〜と嘆息する
蠦蛸の術ハ絲を文章どる

安政七年庚申新刊

柳下亭のあるゞ
種員ありうと

冬間力松
俊ヶ八郎武門
真竜府ゥ
すったの二戸

一寸曲五郎

廿七編ふ豊後ふ保忠詩の

豊臣
横

南
伯

春
刑
山石

彈

西面鑑花田物語

偽名淺氏大伝

古今俳優似顔大全

太平記英勇傳